

## 椿昇審査委員長の総評

ワインを飲むことが生活に溶け込んでいるとはいえない日本人にとって、ワインと過ごす時間は、ちょっぴり晴れやかな気分に含まれることが多いように思います。ワイングラスのルージュの奥に揺れるろうそくの光や、たおやかな情景。それらはグラスを交わす特別な人々と特別な時間を束の間の物語に紡ぎます。特に一年で一度の新酒を迎える晴れやかさは、とても輝かしい気持ちを人々に与えてくれるのです。誕生日でもなく結婚記念日でも無い、特別の目的を用意しなくても幸せに含まれるその日のためにラベルのデザインを選びました。

まずグランプリに選ばれた伊川真一さんの作品は、細心の注意で文字だけを回転させながら組み合わせることで、言葉としてやや消費されたかの感があるボジョレー・ヌーボーという名前に、新たな生命を吹き込む意志を強く感じる作品でした。デザインは単に装飾するだけではなく、表現に言葉と意志を織り込むものでなくてはならないと思います。スピリッツと気品を感じさせるデザインによって文句なく選ばれました。

とは言え、コンセプチュアルな作品ばかりが評価されるわけではありません。准グランプリの4作はどれも魅力にあふれ、どれも店頭で購入したいと思うものばかりでした。まず、岩澤愛子さんの作品は手書きの文字とピンクのダイヤモンドのドロイングが暖かで豊穡な魅力に溢れ、たくさんの人々が手に取るであろう魅力にあふれる若々しさが評価されました。

大畑郁弥さんの作品は、ボジョレー地方の風景をモノクロームで手書きした、木版画を彷彿とさせる力強い線が注目を集めました。最近ほとんどのデザインがイラストレーターの線や文字という傾向のなかで、彼の若々しい手書きの線が注目を集めたことに趣向の変化を感じます。アメリカを中心にタイポグラフィーも手書きする時代がやってくるように思いますが、彼は今、必死にイラストレーター勉強中というパラドックスも悩ましいですね。

三宅律子さんのデザインは、エレガントな大人の世界を彷彿とさせる謎めいた構成で異色を放ちました。伸びをする猫と赤いハイヒールが相似形に並び、なにやら謎めいた男女の機微を招き寄せるようなミッドナイトデザイン。ボジョレーが解禁される時刻がミッドナイトということもあり、シンデレラが後ろからツツンしてくれそうな予感あり。

高瀬彩加さんは、学生とは思えない艶と完璧な構図を持ったデザインで高い評価を得ました。特にセレモニーやパーティーには欠かせない大人の華やかさがあり、展覧会のオープニングにはぜひ使ってみたいと思わせる魅力を持っています。晩餐会や舞踏会を美しい庭にしつらえた温室で楽しむなど、北欧では食とデザインを知的にアレンジするムーブメントがあります。そのようなシーンにもこのデザインは使ってみたいと思いました。

この場を通じてご紹介できなかった作品が多く残念ですが、素晴らしい作品を多くお寄せいただいたことに心から感謝いたします。文字のみで挑戦した伊川さん、伸びやかな手書きの岩澤さん大畑さん、大人の魅力を引き出した三宅さん高瀬さん、来年はどんな斬新な提案をいただけるのか審査員一同ワクワクしながらお待ちしております。

審査を終えて

椿昇